

第1章 4年で地震が起きる確率70%の怪

読売新聞の衝撃記事 14

- 東大地震研究所の正式発表ではない 14
- 首都直下型地震の範囲は 16
- 新しい現象が起きたのでもなく、最新の研究成果でもない 17
- 地震研が指摘する読売新聞の4つの誤り 19
- いつまでのデータを活用した試算なのか 22
- 東大地震研グループの事実隠蔽疑惑 23
- 訂正記事を出さない新聞各紙の無責任 24

政府の発表している確率30年で70%と、どうしてそれほど違うのか 25

- 東大地震研グループの確率と地震調査委員会の確率との違い 25

東大地震研グループによる試算 30

- 4年以内に70%はいかにして計算されたか? 30
- 東大地震研グループの誤り 31
- そもそも、マグニチュードって何? 33
- マグニチュードとエネルギー 35
- グーテンベルグ・リヒターの法則 36
- 東大地震研グループの使った地震の回数 40
- 今後4年間の地震の回数 41
- 余震の減少法則 42
- 半

- 年間の余震の数と今後4年間の余震の数 44
- 東大地震研グループの再計算の検証 49

第2章 確率の意味

確率とはどのようなものか 54

- 意味がよくわからない「確率」 54
- 間違いだらけの辞典の定義 56
- 天気予報の確率 57
- 地震の確率も多数の試行が前提 58
- 確率概念のまともな説明 59
- 同じ条件下での偶然現象が前提 60

確率70%の意味 60

- 確率70%に基づく実験 61
- 確率70%をシミュレーションすると…… 61
- 確率70%のわかりやすい例 65
- 確率70%の事象の起こり方 66
- 61
- 確率70%のわ

第3章 東大地震研グループのさらにくわしい分析

東大地震研グループはどのようにして確率70%を算出したのか 72

- 資料はどこで手に入るか 72
- 確率70%の計算根拠 73
- 首都圏誘発地震を狭義の余震とする根本的誤り 74

「余震の確率評価手法」の基本的考え(1) 大森公式 77

東北大地震の余震 77

「余震の確率評価手法」の基本的考え(2) グーテンベルグ・リヒターの法則 81

ポアソン分布による確率の計算 86

二項分布からポアソン分布へ 87 / ポアソン分布に従う具体例 89 / 4年間に、マグニチ
ユード6・7以上7・2以下の地震が発生する確率 91 / 東大地震研グループの4年で確率
70%の信憑性 93

第4章 東海地震発生時の30年確率88%の仮面を剥ぐ……………97

3つのデータから4つめの数値を予測できるか 98

地震の起きる間隔はBPT分布に従う、と仮定 100 / BPT分布の基になるブラウン運動

101 / BPT分布の基礎としてのズレを含むブラウン運動 103 / BPT分布を設定した理

由 107 / a の値の違い 108

東海地震が今後30年間で発生する確率88%の導き方 112

BPT分布の仮定は合理的か 112

不適切な「条件付き確率」 113

条件付き確率とは 113 / 東海地震が30年間に起きる確率88%はどう導かれたか 118 / 条件
付き確率を使うのは適切か 120

第5章 不毛な地震予知・地震発生確率からの脱却を……………125

地震発生確率は妖怪 126 / まともな地震学者の意見に耳を傾けよう 126